

# 令和3年度

## 「言語聴覚の日」イベント 報告



### 福島県

福島県言語聴覚士会では、2021年11月14日(日)に福島民報新聞へ

「話す、聞く、食べるリハビリテーションのスペシャリスト」と題して、

言語聴覚士を県民の皆さんに知っていただく為に、新聞1面広告を企画し実施いたしました。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えず、今年もイベント開催が難しい状況が続いておりましたが、「お家時間が長く続くコロナ禍の今だから、新聞広告を出して、

ゆっくりと県民皆さんにみていただき、言語聴覚士を知ってもらうのはどうだろう？」という

阿久津会長のアイディアによって、今回の取り組みに至りました。

企画にあたっては、県士会広報部や役員を中心に話し合いを行い、言語聴覚士を全く知らない方にもわかりやすい記事構成案を立案いたしました。

今回掲載に協力いただいた福島民報社は福島県に根ざした地元の新聞社です。

我々から新聞社へ企画を持ち込みましたが、掲載形式、掲載内容については新聞社から様々提案をいただき、県民の方に興味を持っていただく形に企画案が作成されました。

新聞広告というと、一般的な広告のイメージだけしかなかったのですが、

新聞社から“広告は記事形式を取り入れることで、多くの情報を伝えることができる”とご提案をいただき、完成したのがこの掲載内容です。

掲載後、県民の方から反響のお葉書をいただいたり、関連団体の方からも声をかけていただいたり、患者さんや家族の方からの反応もいただいたり、1面広告の反響はとてもおおきなものでした。

先行き不透明なコロナ禍の現在、不安で窮屈な毎日を送っていらっしゃる方が多いと思います。

今回、福島県言語聴覚士会では、「今だからこそできることはないか」という前向きな気持ちでイベントを企画し、取り組ませていただきました。

今後も、言語聴覚士会を必要とする方へ、必要な手が届くよう、啓発活動に励んでまいります。

「2021年度言語聴覚の日 開催報告」

会 長 阿久津由紀子

副会長/事務局 志和智美





# 話す、聞く、食べるリハビリテーションのスペシャリスト

## 一般社団法人 福島県言語聴覚士会

### 「自分らしい生活」送る支援

言語聴覚士による言語聴覚療法は、「話す」「聞く」といったコミュニケーションの障害を主な対象とする。近年、高齢化が進む中、食べるなどの摂食嚥下(えんげ)の障害を主な対象とする「コミュニケーション」に関する関心が高まっている。この「コミュニケーション」の障害は、聴覚障害や失音症、失語症、失音症や失語症を含む病気が原因で起こる。また、加齢に伴って聴覚機能が低下し、発音の問題に悩んでいる人が増えている。この「コミュニケーション」の障害は、聴覚障害や失音症、失語症、失音症や失語症を含む病気が原因で起こる。また、加齢に伴って聴覚機能が低下し、発音の問題に悩んでいる人が増えている。



電気式全周波数を使用した発音練習をする言語聴覚士(中央)

### 福島県言語聴覚士会

福島県言語聴覚士会は、二〇〇〇(平成十三年)に「言語聴覚士」の国家資格を持ち、県内で活動する仲間(聴覚障害者)として発足しました。二〇一五年に一般社団法人化し、九月現在の会員数は二百六十七人です。

### 阿久津由紀子会長に聞く

「コミュニケーション」の基礎となる機能は、自由となった方々に対して、言葉は人間らしい生活を送るための重要な要素です。言葉は人間らしい生活を送るための重要な要素です。言葉は人間らしい生活を送るための重要な要素です。

### 相手の一番の理解者に

脳卒中や脳血管の疾患や外傷で言語の中核がダメージを受け、言葉の理解が難しくなる「高次脳機能障害」が、近年増加しています。この障害は、聴覚障害や失音症、失語症、失音症や失語症を含む病気が原因で起こる。また、加齢に伴って聴覚機能が低下し、発音の問題に悩んでいる人が増えている。

言語聴覚士は、大学病院や総合病院のリハビリテーション科、リハビリテーション専門病院、介護老人保健施設、特別支援学校など、幅広い領域で活躍しています。また、地域での活動も盛んに行われています。

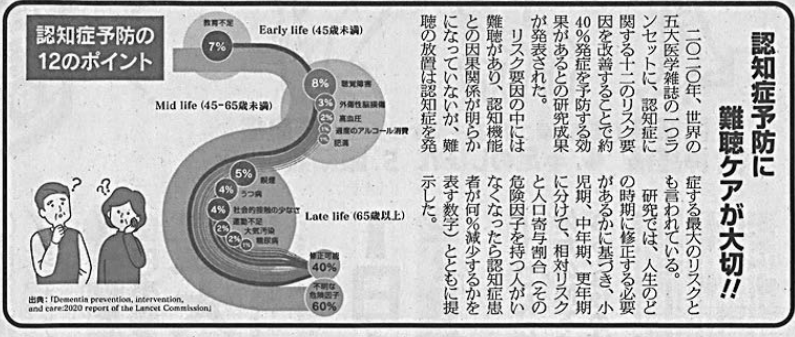
### コミュニケーション支える

現状の評価や機能回復に向けた訓練、代償手段の提案など必要な支援を提供します。理学療法士や作業療法士と連携し、患者様の回復を支援します。

失語症の支援者養成講座で誕生。福島県では推定三千人が脳卒中などの後遺症に悩んでいる。失語症を抱えている人は、日常生活に大きな影響があります。失語症の支援者養成講座は、失語症を抱えている人への支援を目的として開催されています。

### 早期発見、療育に新スキルの受検を

聴覚や発達障害をはじめ、周囲とうまくコミュニケーションがとれない子どもは、早期発見と療育が重要です。言語聴覚士は、子どもの発達を支援するために、早期発見と療育に新スキルの受検を行っています。



## 伝える、支える、心をつなぐ。

言語聴覚士って? 言語聴覚士は医療機関、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活動し、生活の中で大切な要素「話す、聞く、表現する、考える、食べる」ことに問題を持つ方とそのご家族が豊かな社会生活を送れるよう支援するリハビリテーションの専門職です。

私達は、地域の皆様のごきこえ、食べることに関するお困りごとに、専門的サービスを提供することによって、地域社会に貢献してまいります。

参加無料 「吃音の基礎知識とその対応について」

講師: 原 由紀 先生 (北里大学医療衛生学部 リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻)

日時: 2021年12月5日(日) 10:00~12:00(受付9:30~) 定員 約150名

申し込み: QRコードかこちらのURLより申し込み下さい <https://forms.gle/r8QJkHvBvMEhRBx8>

締め切り: 2021年11月28日(日) 17:00まで

※講演会当日のZOOMのURLや注意事項はお申し込み後にご連絡致します

お問い合わせ先: 福島県言語聴覚士会学術部 担当: 斎藤 隆夫 黒澤 大樹 E-Mail: fukushimast.gakujutsu@gmail.com